



おもやい市民花壇の会代表

田宮三鶴代さん

たみや・みづよ 大正9年生まれ、新町在住。88歳まで内科医として勤め、車の運転もしていたそうです。趣味は読書で、好きなジャンルはいろいろな人の生きざまが知れる伝記。

今年5月、「みどりの愛護」功労者として地域の緑化に貢献した功績が認められ、国土交通大臣表彰を受賞したおもやい市民花壇の会。その代表を務めるのが田宮三鶴代さんです。浄水センター横のおもやい市民花壇では、30人ほどの会員がバラの手入れに励んでいます。

「会はやつと理想的な形になりました。これからがますます楽しみ」と、笑みをこぼす田宮さん。「バラ園が荒れていて忍びない」と田宮さんに相談が持ちかけられたことがきっかけで、バラの好きな人が集まり、12年前に会が発足しました。その間何度も活動内容を直してきました。バラの数をただ増やすのではなく、今あるバラの世話に集中するという方針に切り替えるなど、

少ない人数でも無理せず楽しく活動できる工夫を重ねてきました。また、会員の意見を活動に取り入れ、一人一人と向き合いながら会のかじを取ってきました。

暑い日も寒い日も野外での作業に打ち込む会員の姿を真

近で見えてきた田宮さんは「誰にでもできることではない。頭が下がる思いです」と、話します。

以前は労力を伴う除草作業などの参加者の少なさに悩んだ時期もあったという田宮さん。「楽しい花摘みだけが仕事ではない。大変な作業の先に奇麗な花が咲く」と、思いを伝え続けてきたことが実を結び、今ではどの作業でも、会員の積極的な参加が見られるようになり、会として、よりまとまりが出てきました。

バラ園では花壇周りの芝を短く刈り、歩道を整え、車いすの人でもバラを楽しめるような配慮がされています。女医として活躍してきた田宮さんならではの気付きが生かされています。また、バラ園には県内外から多くの人が訪れ、「いつも奇麗なバラに癒されます」など会員の励みになる声もたくさん届けられます。

「バラに触れることで、育てる人も見に来る人も、毎日を明るく過ごしてもらえたら嬉しいですね」と、田宮さんは花のようにほほ笑んでいました。



1. 5月と11月がバラの見頃です。毎年5月にばら祭りが行われます。2. 会は毎週木曜の午前中に活動中です。3. 国土交通大臣表彰感謝状伝達式時の記念写真。前列左から前田さん、前畑市長、田宮さん、小泉さん。後列左から土岐さん、林田さん、中村さん。